

8月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

令和4年8月のD I 値は8指標中、「売上高」が上昇し、「収益状況」「販売価格」「取引条件」「資金繰り」「設備操業度」の5指標が下落、「景況」と「雇用人員」の2指標が横這いとなった。

2. 県内中小企業の景況の現状

先月同様厳しく先行き不透明な状況が続き、原材料やエネルギーの価格高騰、人手不足等により多くの事業者が苦慮している。また、3年ぶりに最大規模で阿波踊りが開催されたが、新型コロナウイルス感染者数が再拡大したことにより、人員不足による業務、工期の遅れや、濃厚接触者の行動制限等による急な対応に追われている事業者もいるようだ。旅行業ではキャンセルの増加や新規の予約数に影響が出ており、商店街でもアーケードや専門店街では人通り少なく、阿波踊り後、特に厳しい状況となったとの声があった。

しかし、阿波踊りが開催されたことにより人出・売上ともに増加したとの明るい報告もあった。その他、アパレル販売売上が回復傾向にあることや、徳島プレミアム生活衛生クーポン券による売上の増加、ビルメンテナンス業では客室稼働率がコロナ禍前に回復しているとの報告があった。

事業者が対応すべき課題は山積みではあるが、景気は緩やかに持ち直している。先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、さらに景気が持ち直していくことが期待される。

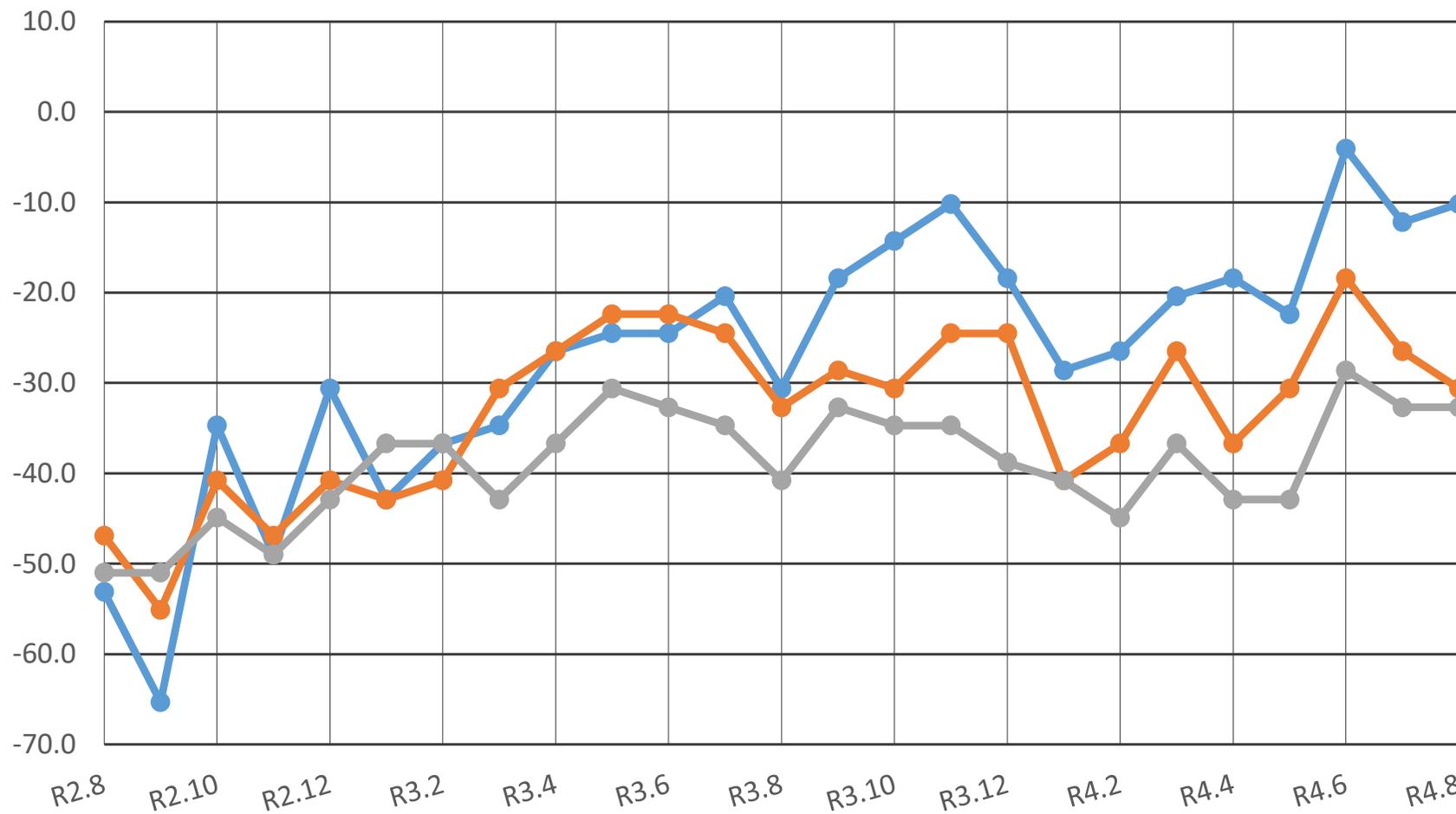
最近の主要指標の前年同月比D I の推移

| | R3 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | R4 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 前月比 増減 |
|-------|----------|-------|-------|-------|-------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 景況 | -40.8 | -32.7 | -34.7 | -34.7 | -38.8 | -40.8 | -44.9 | -36.7 | -42.9 | -42.9 | -28.6 | -32.7 | -32.7 | 0.0 |
| 売上高 | -30.6 | -18.4 | -14.3 | -10.2 | -18.4 | -28.6 | -26.5 | -20.4 | -18.4 | -22.4 | -4.1 | -12.2 | -10.2 | 2.0 |
| 収益状況 | -32.7 | -28.6 | -30.6 | -24.5 | -24.5 | -40.8 | -36.7 | -26.5 | -36.7 | -30.6 | -18.4 | -26.5 | -30.6 | -4.1 |
| 販売価格 | 12.2 | 18.4 | 12.2 | 14.3 | 18.4 | 22.4 | 16.3 | 18.5 | 18.4 | 16.3 | 18.4 | 32.7 | 22.4 | -10.3 |
| 取引条件 | -16.3 | -14.3 | -6.1 | -8.2 | -8.2 | -16.3 | -24.5 | -16.3 | -12.2 | -16.3 | -12.2 | -10.2 | -16.3 | -6.1 |
| 資金繰り | -14.3 | -10.2 | -12.2 | -16.3 | -16.3 | -16.3 | -20.4 | -20.4 | -16.3 | -14.3 | -6.1 | -12.2 | -16.3 | -4.1 |
| 設備操業度 | -10.2 | -6.1 | -4.1 | 2.0 | -2.0 | -4.1 | -10.2 | -8.2 | -6.1 | -6.1 | -6.1 | -8.2 | -12.2 | -4.0 |
| 雇用人員 | -8.2 | -8.2 | 2.0 | -10.2 | -2.0 | -10.2 | -10.2 | -12.2 | -6.1 | -8.2 | -10.2 | -8.2 | -8.2 | 0.0 |

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

前年同月比DIの推移

売上高 収益状況 景況



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・コロナの感染状況は厳しいものがあるが、業界としてはそれ以上に原材料やエネルギー価格、人件費の上昇への対応が、今後ますます難しくなると思われる。今月の味噌の生産、出荷の指標においては特に大きな変動はないものの、収益の面においては一層厳しくなると予想されるが、それぞれの創意工夫で何とか乗り切っていきたい。
2. 漬 物・資材高騰の影響が大きく、利益を大きく圧迫している。

<繊維・同製品>

3. 縫 製・コロナの感染が増える中、外出制限が解除され、店舗に客が戻り始めアパレル販売売上が徐々に回復傾向にあるとの事です。しかし、まだまだコロナ前の売り上げには届かずブランド初め我々も苦戦をしています。また、昨今の為替問題で円安が続いている事や中国ロックダウンの影響を受け、国内生産が不安定な状況が続いています。
4. 縫 製・前月とほぼ変わらない景況である。コロナ等による労働力に関する不安事由はあるものの、対策を徹底し、対応する予定である。設備等の生産体制を中長期的に再構築を進める途上である。生産面は、下期に向けて予定どおり備蓄生産が加速する。値上げは、生産関係の原材料費他は、ほぼ全取引において値上げとなり、一般管理費にも広がってきている。為替による生産の影響も大きい。

<木材・木製品>

5. 製 材・製材用丸太は価格が高止まりし、木材需要も減少傾向で、在庫処分により収益をカバーしているところもある。資材高騰でインフレの影響がいつまで続くのか、各社注視している様子である。
6. 製 材・一進一退の状況で先行き不透明である。
7. 木 材・8月においては、価格面の変動が少なくなったが、高止まりで推移している。地域・季節の差異はあるが、出荷される素材の量が必要量に達していないことが地場の製材業の閉鎖が続いている1つの原因かもしれない。

<印 刷>

8. 印 刷・もともと8月は休みも多く売上が上がらない月である。今年は、阿波踊りが3年ぶりに最大規模で再開され、経済活動を活発にするための大きなチャレンジとなった。残念ながらその後、想定外の感染者数の増加となった。経済活動も少し失速、9月も落ち込みが予想される。世界に比べた日本のコロナウイルスの収束は見通せず。独自の対策を期待したい。
9. 印 刷・昨年の8月は新型コロナウイルスの第5波と時短営業があったためとても苦しい月であった。本年8月は昨年の8月に比べると少し売上げ、収益とも良くなったが、前向きな明るい話題があったわけではなかった。用紙、資材等の更なる値上げに対してどういう舵取りをとれば良いか頭が痛いところだ。

<窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・8月の出荷量は昨年同月比、約7%の減少であった。お盆休みと1工場がプラントの設備更新のためほぼ出荷できない状況も重なったことが要因であると思われる。また、この秋頃再びセメントが値上がりするという知らせを受け、再度の価格改定について苦慮しそうである。
11. 生 コ ン・8月の出荷数量は、対前年同月比8%増であった。要因としては官工事での四国横断道路の受注工事が進んでいることによる。収益状況については、7月より生コン価格引き上げを行ったが、さらに大手セメントメーカー各社がセメント価格の3000円値上げが打ち出されており、更なる原材料の引き上げにより生コン業界の経営環境が厳しい状況に変わりない。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・新型コロナウイルス感染症の再拡大により行動制限等の影響を受けて、人員不足による業務の遅れなどが出ている。また、原材料や人件費の上昇等により、売上は横ばいであったが採算は低調となった。
13. ス テ ン レ ス・国内外ともに企業活動再開に向けた動きが活発化してきている。材料価格の高騰、電気部品・装置部品の長納期化、原油高は長期化しておりまだまだ改善の気配が伺えない状態である。加えて円安状態も長期安定化の方向にあって、先行きの不透明な状態が継続している。新型コロナウイルス感染数の急拡大は落ち着き、減少傾向にあるが気を緩めず感染対策を実施しながら対応を進めて行く。

<一般機器>

14. 機械金属・県内では、新型コロナウイルスの感染者数が過去最高を更新するなど、諸々の不安定要因により、営業活動の停滞、部品の調達難、原油・原材料価格の高騰等から、売上高や引合いなどに厳しい状況が見られ、一部に景況感の持ち直しの動きも見られる一方、引き続き、先行きが見通せない不透明な経営環境が懸念される。また、需要の停滞をはじめ、円安による小売価格の高騰、従業員の確保難なども、引き続き、経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

15. 食糧 卸・米その物の価値は上がっていないが、肥料、燃料等の大幅な値上がりの中、米価を上げるといふ国策が広がり、全農等がその方針に従っており、在庫は大量にあり販売も低調の中での国策は通用するのか。

<小売業>

16. ショッピングセンター・8月の前年対比は売上96.1%、客数93.2%です。今期に入り5ヵ月が経過しますが、前年対比でいうと2番目に悪いです(売上高では2番目に良いのですが…)。業種別にはサービスが115.1%、衣料品102.8%、身の回り品98.5%、衣料品95.8%、住居関連94.2%、食品93.7%の順になっています。当館のサービス業種はクリーニングと美容室ですが、現在徳島プレミアム生活衛生クーポン券が利用できるため数字が上がっていると思われます。
17. 機械器具・納期が遅れていた物が急に入荷。円高も含め消費マインドが低下しているため、在庫過多になる可能性あり。ただし来期に持ち越せることも可能。資金繰りが少し悪化の様子あり。
18. 畳小売業・猛暑の8月、高齢化した職人さんは仕事が合っても涼しくなってからと、先延ばしにするところもあり、コロナが下火になってからと、客から延期されることもあった。総じて仕事量は少なかったが、来月はできるはずと信じている。メーカー値上げ品の在庫を手配する動きが多少物流となったぐらいであった。
19. 電気機器・猛暑の影響も有り、空調関連の動きは昨年と同様まで回復してきたが、一部の商品は流通の不具合により品不足が続いている。

<商店街>

20. 阿南市・延期になった夏まつりが11月に開催予定。
21. 徳島市・3年ぶりの阿波踊り開催で、お盆期間中には人手・売上ともに増えたようだ。
22. 徳島市・元々静かな8月、阿波おどりの規模が縮小でアーケード、専門店街ともに人通りが少なめ。BA.5の人数が一気に増加し、特に阿波踊りのあと、さらに厳しい状況になっている。

<サービス業>

23. 広告業・仕入価格が毎月5～10%ずつ上がっており、販売価格に反映させるのが難しく、社内で価格を共有するのも難しい状況。イベントが再開しているものの、コロナ感染拡大防止の為規模が縮小しており、看板の発注量も少ない。都市部が落ち着いた頃に地方へコロナ感染が拡大してきており、濃厚接触者となって休む社員や、コロナ感染して休む社員が出てきており、時には施工日をずらしたりと急な対応に追われている。
24. 土木建築業・前年同月と比べて先月と状況変わらず。人員増加により人件費がわずかに上昇。コロナ対応、対策のため、テレワーク・リモート設備等に投資し充実させ、1室借増したことで事務所経費が増加。
25. 自動車整備業・8月の新車販売台数は、登録車・軽自動車ともにそれぞれ新車・中古車のすべてが前年度割れ。登録車の新車は14.3%減、軽自動車の中古車は15.6%減、結果トータルでは10.8%減となった。新車に関しては、メーカーや車種によってバラつきがあるものの、依然として納期遅延の問題は解消されていないようだ。軽自動車より登録車のほうが状況は悪いように見えるのは、やはりトップシェアのメーカーがより深刻な生産及び納期遅延になっていることが影響しているようだ。中古車に関しては、状態の良い中古車は展示場に並ばず、右から左に流れてしまうほど中古車が不足しているようだ。収益情報の目安とみている継続検査の台数は、登録車は1.3%増、軽自動車は4.3%増という結果だった。
26. ビル管理・近年の最低賃金の急激な増額改定、原材料費の値上げ等が相まって厳しい経営環境が予想され、これらに対応するべき事業活動に当たる必要があります。最低賃金の引上げによる経営の圧迫については、契約先に理解を求める活動を粘り強く行っているところです。通常営業関係のホテルのメンテナンス業に関しては、ウィズコロナにより客室稼働率がほぼコロナ禍前に回復しています。逆にコロナ関連の受入ホテルでは、陽性者の増加により、更に受け入れ期間が延長となり、通常営業の再開は未定のままです。このように、ホテル関連メンテナンス業への影響は続いています。また、病院など医療施設に関しては、急激なコロナ陽性者の増加に伴い、職員が行っていた陽性患者入院室等の清掃業務もメンテナンス業者に協力依頼の相談があるなど、新たな動きも一部出ています。コロナ禍においても引き続き管理者と連携し細心の注意の下で業務を遂行しています。これらの課題への対応に加えて、コロナ後に備えて従業員の補填活動も大きな経営課題として取り組んでいるところです。
27. 旅行業・前月までは売上も増加傾向にあった事業所も、今月は徳島県でコロナウイルス感染者数が過去最大となりキャンセルが増え、さらには新規の予約数も減少となった。又、燃料費の高騰等で旅行商品の値上げも検討している。

<建設業>

28. 建設業・8月は県発注工事が減少した。昨年度比20%減となっている。全体でも減少した。対前年比約6%減となっている。
29. 板金工事業・今回は例年並みの状況であったが、見積数が少ないため、秋以降の状況には不安がある。
30. 鉄骨・鉄筋工事業・県内の仕事量が不足している。コロナによる工期の遅延等の影響がかなり出ている。
31. 電気工事業・新設住宅口数は111件で、昨年同月比58%となった。

<運輸業>

32. 貨物運送業・今回はお盆休暇があり営業日数が少なかったことと、コロナウイルスの拡大の影響もあって全般に低調に推移した。一方軽油単価は国の助成金により、前月比で横ばいの高止まりで燃料高、運賃値上げ低調の厳しい状況が続いている。
33. 貨物運送業・燃料価格が依然、高止まりの状況にある。9月末までを期限としていた燃料の激変緩和措置の12月までの延長が決定され少しは事業者の負担緩和となっているが、燃料コストは跳ね上がっており苦しい状況は続いている。